

2014 年度 電子情報通信学会 SWIM 専門委員会 第 4 回議事録 (案)

開催日時：2015 年 2 月 27 日(金) 12:00～12:50

場所：機械振興会館 1 階 102 号室

進行：SWIM 副委員長 宇田川

出席者(順不同)：丹原、松本、片岡、荻野、丸山、堀米、結城、黒瀬、宮西、増井、宇田川(記)

議題：

1. 来年度の体制
 - ・役員(正副委員長、幹事、幹事補)
 - ・運営委員、専門委員
 - ・各種委員 (会計、ソサエティ委員、FIT 担当、総合大会担当、ホームページ担当、メーリングリスト担当、査読委員長)
2. 来年度の研究会の開催計画 (確認事項)
 - ・行事予定と世話人
 - ・専門委員会日程
3. 2014 年度 SWIM 研究会最優秀論文賞の選考委員会の立ち上げ
4. FIT2015 計画
5. SWIM 活性化施策

議事

1. 来年度の体制

1-1. 2015 年度役員 (学会の正式委員) 案について

議案どおり、2015 年度の運営役員は、2014 年度から継承することとした。なお、東京地区に在住する幹事が中心となって活動することとなる。

委員長	須栗 裕樹	副委員長	宇田川 佳久
幹事	荻野 正	幹事	結城 修
幹事補	丸山 文宏	幹事補	永吉実武

本体制は正式には 5 月学会承認後であるが、恒例により 4 月から実施する。

幹事長 (専門委員会の開催準備 (議事案、開催通知、会議室等の確保等)) は宇田川が継続して担当する。

1-2. 運営委員(SWIM 内の委員) 案について

議案どおり、2015 年度の運営委員は、2014 年度から継承することとした。

2013 年度(参考)	堀米明、片岡信弘、新川芳行、谷垣豪、宮西洋太郎、(坂下善彦)、林 章浩、松田順、松本正雄、家田信吾、石野正彦、増井久之、浅井邦之、岩田祐一、飯島正、(野地保)、(黒瀬晋) () は退任
2014, 5 年度	須栗裕樹、宇田川佳久、荻野正、結城修、丸山文宏、永吉実武、堀米明、片岡信弘、新川芳行、谷垣豪、宮西洋太郎、林 章浩、松田順、松本正雄、家田信吾、石野正彦、増井久之、浅井邦之、岩田祐一、飯島正、野地保、黒瀬晋、丹原雅夫

運営委員は、SWIM 内の役割であり、期中にも適任者がいたら参加いただくようにする。

→運営委員の役割として、研究会の運営に協力いただくと共に座長なども担当して頂く。

1-3. 2015年度各種委員案について

議案どおり、2015年度の各種委員は、2014年度から継承することとした。

業務	2014, 15年度	(2013年度)	備考
会計	堀米	堀米	学会の仕事
ソサエティ誌委員	宇田川	宇田川	学会の仕事
FIT	丸山	野地	学会の仕事
総合大会	結城	黒瀬	学会の仕事
ホームページ	須栗、谷垣	須栗、谷垣	IEICE 上
メーリングリスト	須栗	須栗	IEICE 上
swim-news	片岡	片岡	Google 上
優秀論文表彰委員会委員長	委員長	委員長	表彰委員会 規定による
表彰委員会委員幹事	SWIM 幹事	SWIM 幹事	
表彰委員会委員	運営委員	運営委員	
査読委員長	新川	新川	
ICEIS の担当	須栗	須栗	
ISS 功労表彰	委員長マター	委員長マター	
学会事務局窓口	堀米	黒瀬	

→フェロー、シニアの推薦は、学会から案内があり、手続きを行う。

2014年度からフェローはシニアから推薦となったので、まずシニアを増やすことが重要。
会員歴10年を超えた人はできるだけシニアに推薦（自己推薦）するようにする。

研究会としてシニア候補を推薦しても差し支えない（決定権はシニアの選考委員会にある）。

1-4. 2015年度専門委員会メンバー(学会から委嘱状が発行) 案について

議案どおり、2015年度の委員会メンバーは、2014年度から継承することとした。

役職名称 氏名 (所属)

委員長 須栗裕樹 (宮城大学 事業構想学部デザイン情報学科)
 副委員長 宇田川佳久 (東京工芸大学 工学部コンピュータ応用学科)
 幹事 荻野正 (沖縄高専 情報通信システム工学科)
 幹事 結城修(キヤノン株式会社 宇都宮事業所光学技術研究所計測システム開発室)
 幹事補佐 丸山文宏 (株式会社富士通研究所 R&D戦略本部)
 幹事補佐 永吉実武 (早稲田大学 商学学術院総合研究所 WBS 研究センター)
 専門委員 堀米明 (株式会社フィジオ 経営戦略室長)
 専門委員 片岡 信弘 (元東海大学)
 専門委員 新川芳行 (龍谷大学 理工学部)
 専門委員 谷垣豪 (株式会社ビーオーピー)
 専門委員 宮西洋太郎 (株式会社アイエスイーエム)
 専門委員 林 章浩 (株式会社小野測器 管理本部 CMMI 担当)
 専門委員 松田順 (千代田ユーテック株式会社 千代田事業部長)
 専門委員 松本正雄 (ソリューション総研 主宰)
 専門委員 家田信吾 (日本電話施設株式会社 NGI ビジネス本部)
 専門委員 石野正彦 (文教大学 情報学部 情報社会学科)
 専門委員 増井久之 (元香川大学)
 専門委員 浅井邦之 (株式会社ビーオーピー 代表取締役)
 専門委員 岩田祐一 (日本電信電話株式会社 ロンドン駐在)
 専門委員 飯島正 (慶應義塾大学 理工学部管理工学科)
 専門委員 野地保 (元東海大学)
 専門委員 黒瀬晋 (NEC 流通・サービス業ソリューション開発本部)
 専門委員 丹原雅夫 (NTT アイティ)

2. 来年度の研究会の開催計画 (確認事項)

2-1. 2015 年度行事予定と世話人

議案どおり、2015 年度の行事予定と世話人は、2014 年度から継承することとした。

	日時	開催場所	世話人	CFP	プログラム締切 (発表申込締切)	論文 件数	ペー ジ数 予定	備考
第 1 回 研究会	5 月 23(土)	機械振興 会館	丹原	1 月 中旬	3 月 13 日(金)	5	30	IT 技術とイン タプライズ、一 般
第 2 回 研究会	8 月 20(木)	法政大学	宇田川	5 月 初旬	6 月 19 日(金)	6	36	インタプライズ のモデリング、 一般
FIT 2015	9 月 15(火) ～ 17(木)	愛媛大学	丸山		査読付 4/17? 一般 5/23?	--	--	
CEA TEC						--	--	2014 年度は不 参加
第 3 回 研究会	12 月 5(土)	東京工芸 大学	宇田川	8 月 中旬	9 月 25 日(金)	8	64	モデリングの実 装、一般 (ワークショップ)
第 4 回 研究会	2 月 26(金)	機械振興 会館	荻野	11 月 下旬	12 月 11 日(金)	8	50	ビジネス評価と 信頼性、学生セ ッション、一般
2016 総合	3 月 20 頃	未定	結城		未定	--	--	
					合計	27	180	

- ・ 今年度は予算化していた学生アルバイトは使わなかったが、学生に興味を持ってもらうためにも、次年度は活用を検討する。
- ・ FIT には、SWIM の査読つき論文に応募いただきたい旨、案内する。担当:丸山委員
- ・ 2015 年度の CEATEC への参加は見送る。

2-2. 2014 年度専門委員会日程(研究会の日に行く) 案について

議案どおり、専門委員会の日程を下記とした。

	日時	開催場所	テーマ
第 1 回専門委員会	5 月 23 日(土)	機械振興会館	年度実行計画 FIT2015 フォロー
第 2 回専門委員会	10 月上旬	機械振興会館	来年度計画、功労賞他 年度実行計画フォロー 2016 年度事業計画
第 3 回専門委員会	12 月 5(土)	東京工芸大学	2016 年度体制 総合大会フォロー
第 4 回専門委員会	2 月 26(金)	機械振興会館	論文賞選考委員会の立ち上げ 2016 年度新体制の提出

- ・ 委員長、副委員長ともに出席できない場合には、日程調整または Skype 利用を検討する。

3. 2014 年度 SWIM 研究会最優秀論文賞の選考委員会の立ち上げ

例年同様。SWIM 研究会最優秀論文賞の選考委員会を立ち上げる。
選考幹事を結城殿とする。

【組織】

選考委員長： 須栗 2014 年度委員長
選考幹事： 2014 年度幹事（結城殿）
選考メンバー： 2014 年度運営委員全員

【選考スケジュール】

投票依頼： 4 月 9 日 （去年は 4 月 9 日頃）
投票期限： 4 月 30 日
選考委員会： 5 月 7 日メールによる
表彰式： 5 月 23 日(土)

4. FIT2015 計画の報告事項（丸山委員）

2015 年度については、イベント企画の提案は行わないこととする。

5. 2015 年度第 1 回研究会特別講演のテーマについて

第 1 回研究会特別講演については、SWIM 研究会を特徴付けるキーワード(Enterprise modeling, IoT, IoE など)を講演予定者に連絡し、ご対応をお願いする（丹原委員）。

SWIM 研究会のテーマをバランスさせるために、特別講演の候補者をリストアップし、計画的に特別講演を運営してゆく。

松本先生より、10 名程度の候補者をご連絡いただく（2 月 28 日に候補者リスト拝受）

6. SWIM 活性化施策について

松本先生より事前にご提示いただいた「SWIM 研専への意見書」に基づき検討した。

【BA 攻究奨励ゼミ】

ご提案があった「BA 攻究奨励ゼミ」については、該当外知見【SWIM 研究会以外の場で得た知見】であってもその旨の実証が困難なため該当外知見の開示は 元来自由であるにも拘らず、制約してしまう恐れを払拭できず、望ましい対処方法がないため、松本先生の意向により、ペンディングのままは良くないので取り下げる。

【タスクフォースへの素朴な質問】

「タスクフォースへの素朴な質問」について、片岡先生より下記の回答があった。

1. 「儲ける仕組み作り」について ➡ 今回のタスクフォース、儲ける仕組み作るものではなく、アイデアをビジネスモデルとし、それを支える情報システムを実動する一連の流れを考えものである。一般論は難しいと考えるのでいくつかの事例での実現を考える。
2. 資源の確保 ➡ フリーソフトや有償ソフトウェアのトライアル等を活用し、タスクフォースで賄える額で推進する。
3. IP (Intellectual Property) について ➡ IP 取得が必要なら参加者が自分で行う。通常の学会活動と同じである。
4. プロトタイプ試行のフレームワーク ➡ フリーソフトや有償ソフトウェアのトライアル等を活用したフレームワークを構築する。
5. SWIM 研専とタスクフォースの位置づけ ➡ 有志が集まった任意団体で、SWIM 以外のメンバーには SWIM への参加を促す。

以上